

9 ユニバーサルデザイン

近年、生涯学習ニーズの増大や地域・産業界との連携促進等により、多様な人々がキャンパスを利用する機会が増えている。これらの人々が安全かつ円滑に利用できるキャンパスを目指す。

本学の創設当時、バリアフリーやノーマライゼーションに対する社会認識は低く、基本計画でも検討されていない。このため、学内には対応が不十分な箇所が多く残っている。

キャンパスリニューアル計画では、高齢者や身体に障害のある人達に対してバリアフリーであることはもちろん、怪我をした人やベビーカーを押した母親など、年齢・性別・能力や障害の有無に関わらず全ての人が安全・快適に施設を利用できるユニバーサルデザインの視点から改善計画を提案する。

○ 駐車場・バス停などのアクセスポイントの整備

身障者用駐車場は肢体不自由を主な対象とする。ループ道路内側の各建物群の案内所(警備員室、事務室等)の近く及び公共性の高い施設(図書館、大学会館等)に設ける。

○ 駐車場・バス停等から建物への移動空間の整備

アクセスポイントから建物への歩道は、車道と分離し段差解消や点字ブロック等の整備を行う。また、舗装材は平坦性、滑りにくさ等に配慮する。

○ 建物入口及び内部空間の整備

建物の主要な入口にスロープを設けるとともに、玄関扉は車椅子を考慮した幅・構造(自動扉が望ましい)とする。建物内は、垂直動線を確保するEV(車椅子対応、音声案内)、身障者用トイレ等を設ける。

○ サイン等の整備

障害者用サインは視覚障害者を対象とする。バス停・アプローチ・建物入口及び建物内に整備する。

○ 宿泊施設の整備

学生宿舎等の整備も重要である。障害者用の民間宿舎は少なく大学が対応する必要がある。出入口の段差解消・EV・トイレをはじめ、障害の程度に応じてリフトバス(現在2室保有)や、聴覚障害者の利用室は発光及び振動による火災報知設備、呼出し設備等を設置する。

○ 「心のバリアフリー」の大切さ

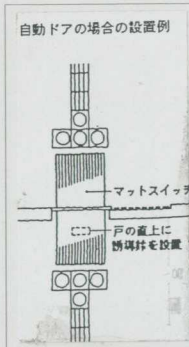
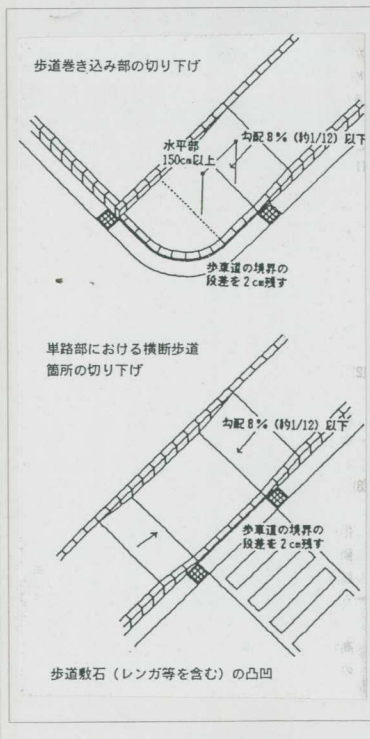
バリアフリーとは全ての人に安全で障害のないものであるべきだが、ハード面の整備では往々にして誰かにとって便利なものが、他の誰かの障害になることがある。例えば四股に障害を持つ人にとって、点字ブロックもバリアとなる。

ハード面の整備以上に、何よりも大切なものは「心のバリアフリー」である。

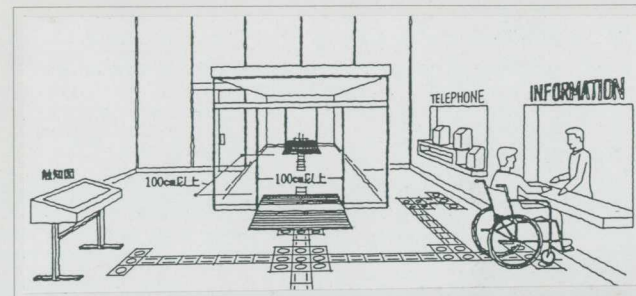
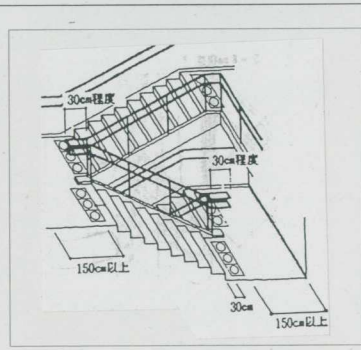
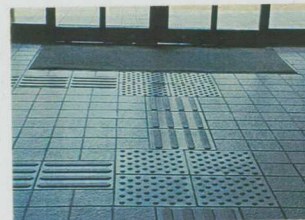


現状

今後の歩道の設計には下図のような切り下げを考慮する。



玄関入り口はできるだけ自動ドアとし、合わせて点字ブロックも考慮する。



建物玄関のイメージ



身障者用エレベータ
身障者用トイレ等への改修



身障者用スロープの設置